

ALL JAPAN & TOKYOプロジェクト

～ 日本各地と東京

オールジャパンで取り組む産業振興施策 ～

＜平成30年度の実績＞

東京都産業労働局

平成31年4月



「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト～日本各地と東京 オールジャパンで取り組む産業振興施策～」(平成27年11月公表)について、各道府県との連携の具体化に向けた意見等を踏まえて実施している各施策の平成30年度における取組状況を取りまとめました。

1 プロジェクトの背景

- 真の地方創生の実現のためには、日本各地と東京がそれぞれの魅力を高め、互いに協力し合うことにより、共に栄え、成長することが必要。
 - 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、東京のみならず日本全国様々な魅力を世界に示す絶好の機会。日本各地で、この機会を活かし、経済活性化を実現することが、我が国の産業振興を図るうえで極めて重要。
- 日本各地と東京都が連携して行う、双方の強みを活かし、双方に高い効果が見込まれる産業振興施策を「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト」として取りまとめ、実施。

2 取組の経緯

- 平成27年11月、「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト」を公表
- 平成27年11月～平成28年2月に各道府県を訪問し、連携の具体化に向けた意見交換を実施
- 平成28年度から、プロジェクトの施策を本格的に実施。各道府県との意見交換の結果等を踏まえた新たな取組も追加して実施。

3 今後の対応

今後も各道府県と意見交換を行う等、連携の強化を図り、施策を更に充実していく。

1. 東京2020大会等を契機とする全国の中小企業の活性化

- ① 都内・全国の中小企業の受注機会の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ② 新製品・新サービスの開発・販売を支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2. 全国の中小企業の優れた技術等を活用

- ① 中小企業のロボット産業への参入を支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ② 東京のデザイナーとテキスタイル産地の交流を促進・・・・・・・・・・ 6
- ③ 伝統工芸品の多様な魅力の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ④ 産業交流展で「全国ゾーン」を設置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ⑤ 日本各地で東京の企業と現地の企業との商談会を開催・・・・・・・・ 8
- ⑥ 日本各地で都内の製販企業との医工連携を促進・・・・・・・・・・ 9
- ⑦ 中小企業連携促進ファンドを設立・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ⑧ 日本の匠の技の魅力を発信する「ものづくり・匠の技の祭典」を開催・・ 10

3. 日本各地と連携した農林業振興

- ① 東京のブランド豚「トウキョウX」による収益力向上・・・・・・・・・・ 11
- ② 東京の地域材と他県産木材の利用促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ③ 日本各地の農林水産物の東京での販路拡大・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4. 日本各地と連携した外国人旅行者誘致

- ① 東京と各地との観光ルートの設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ② 経済効果の高いMICEを国内他都市と連携して誘致・・・・・・・・・・ 17
- ③ 日本各地の道府県の提案に応じた訪日外国人誘致プロモーションの共同実施・・ 18
- ④ 東京圏大回廊を活用した観光振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ⑤ 国際スポーツ大会を契機とした観光振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

5. 東京で日本各地の魅力に触れる機会の充実

- ① 都内アンテナショップの情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ② 東京都の観光情報センターで全国の観光情報を提供・・・・・・・・・・ 21
- ③ 民間大規模イベントを活用した各地の観光PR・・・・・・・・・・ 22
- ④ 日本各地と都内の各自治体が連携した観光資源の磨き上げ・・・・・・・・ 22
- ⑤ 日本全国物産展（LOCAL SPECIALTIES FAIR）を開催・・・・・・・・・・ 23
- ⑥ 都庁舎の「全国の自治体の観光情報発信拠点」での各地の観光PR・・ 23
- ⑦ 「東京味わいフェスタ」を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

1. 東京2020大会等を契機とする中長期的なビジネスチャンスに向けた 全国の中小企業の活性化

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機とする中長期的なビジネスチャンスに向けた中小企業等の優れた技術・製品等の活用が一層進むよう、全国の中小企業等も対象として「中小企業世界発信プロジェクト」を実施し、全国の中小企業の活性化に寄与。

① 都内・全国の中小企業の受注機会の拡大を後押し

- ✓ 東京2020大会等を契機とする官民の入札・調達情報を一元的に集約したマッチングサイト「ビジネスチャンス・ナビ2020」を平成28年4月に立ち上げ
 - ⇒ 都内のみならず、全国の中小企業がアクセス可能
 - ⇒ 全国の中小企業の優れた技術の活用を促進、受注機会の拡大を図る
 - ✓ 登録企業数は、29,073件（平成31年3月末現在）
 - ✓ （公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、（株）東京国際フォーラム、（株）東京ビッグサイト、（公財）東京都中小企業振興公社、（公財）東京しごと財団、（公財）東京都農林水産振興財団、（公財）東京観光財団、（公財）東京動物園協会 等の計14団体で当システムを電子入札で活用（平成31年3月31日現在）
 - ✓ 国と連携を図りながら、大手企業等に広くポータルサイトへの発注情報の掲載を働きかけるとともに、全国の中小企業にポータルサイトの登録・利用を呼びかけ
 - ⇒ 各地方公共団体にプロジェクトへの理解・協力を依頼
-
- 「ビジネスチャンス・ナビ2020」のシステムイメージ



② 新製品・新サービスの開発・販売を支援

- ✓ 東京2020大会等を契機とする中長期的なビジネスチャンスに向け、東京だけでなく日本各地の中小企業が開発した創意あふれる製品・サービス等を一堂に展示する「ビジネスフロンティア・フェア」を開催し、中小企業の販路開拓を強力に支援（平成28年10月31日～11月2日、東京ビッグサイト）
- ✓ 平成29年度および30年度は、ギフト・ショー、産業交流展、シーテックジャパンに「東京ビジネスフロンティアパビリオン」を設けるなど、各地の中小企業の販路開拓を支援。
- ✓ 中長期的に見込まれる様々なビジネスチャンスに向けて開発された製品・技術、サービスを表彰する「世界発信コンペティション」を開催し、製品等の開発を促進。都内中小企業と日本各地の中小企業が連携した製品等も対象。



「東京ビジネスフロンティアパビリオン」
(シーテックジャパン)



「世界発信コンペティション」表彰式

2. 全国の中小企業の優れた技術等を活用

東京と日本各地の中小企業等が有する優れた技術・製品等の連携を促進し、新たなサービスや製品の創出を図る。

① 中小企業のロボット産業への参入を支援

- ✓ 全国からロボットを活用した新しいサービスの創出を行う企業を公募し、東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）との共同研究・開発を支援
- ✓ 30年度は7件中3件、各地の企業が採択
- ✓ 安全認証の支援、展示会等を活用した市場開拓支援等を実施
- ✓ 都産技研が開発した要素技術を用いたロボットの実証利用、企業との交流等を日本各地で実施
- ✓ サービスロボット産業への参入を希望する企業間の交流や情報交換、開発に必要な技術習得の場を提供する「サービスロボット事業化交流会」（30年度立ち上げ）に、日本各地の企業が会員として参加

中小企業等との共同研究

共同研究の事例



介護支援ロボット



案内支援ロボット



点検支援ロボット



産業支援ロボット



災害調査/気象観測用
高速巡航型ドローン
（点検支援）



屋内型ロボットウォーカー
（介護支援）



ドライ清掃ロボット
（産業支援）

実証利用



西武新宿駅での実証実験の様子

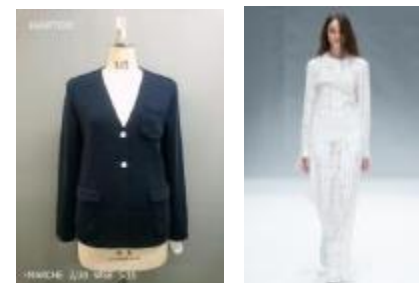
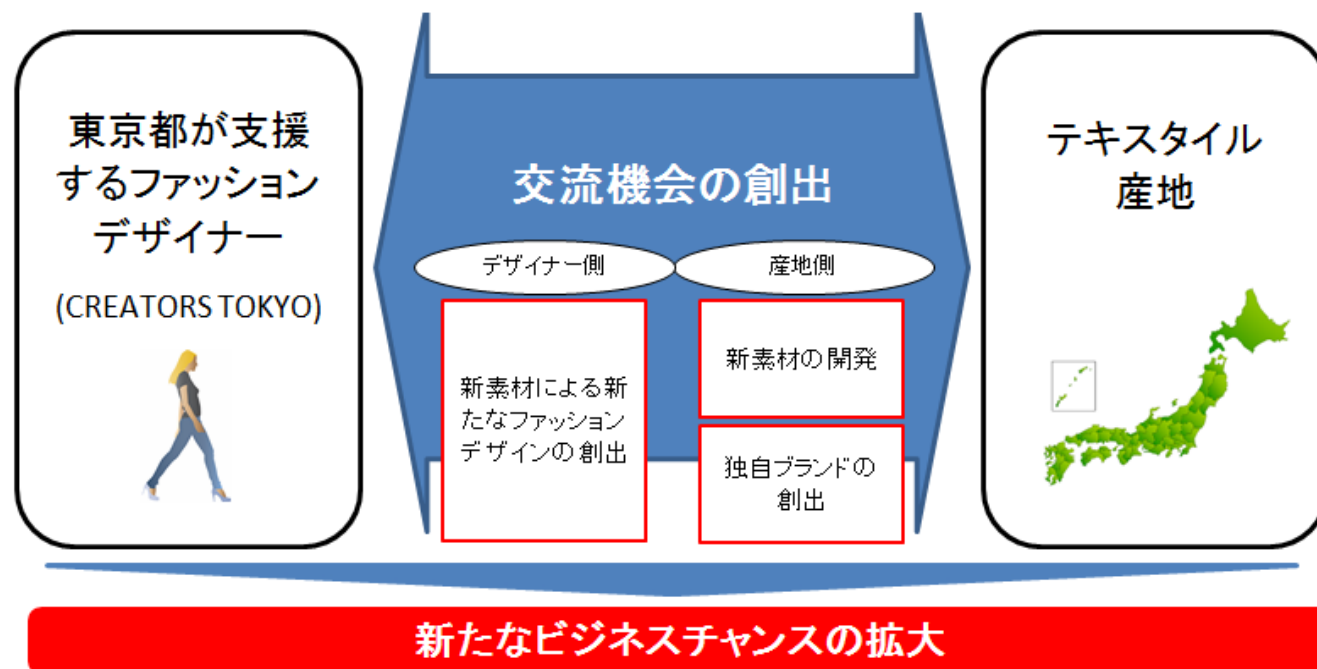


ドローン飛行実験の様子

② 東京のデザイナーとテキスタイル産地の交流を促進

東京のデザイナーと産地との交流機会を創出（デザイナーの要望に基づき個別に斡旋）

- ✓ 新たな素材開発や産地のブランド化を促進
 - ✓ 独自素材を活用した新たなファッションデザインの創出
- ⇒ 相互のニーズに基づきデザイナーと産地を結びつけ、ビジネスチャンスを拡大



新潟県の繊維メーカーとの
マッチング実績

③ 伝統工芸品の多様な魅力の発信

- ✓ 伝統工芸品の職人とデザイナー等のマッチングによる高品質でデザイン性の高い新商品開発や、プロモーション・展示会出展などの普及促進活動を展開

⇒ 東京と他産地とのコラボ商品なども支援対象とし、伝統工芸品の多様な魅力を国内外に発信

開発支援により、他産地とのコラボ商品が平成27年度は3件、28年度は2件誕生

- ✓ 第34回伝統的工芸品月間国民会議全国大会を東京で開催（平成29年11月3日～6日）
東京国際フォーラム（メイン会場）、JPタワーKITTE、東京ビルTOKIA、丸ビル（サブ会場）
において東京及び33府県の伝統的工芸品をPR

他産地とのコラボ商品の例（「東京手仕事」プロジェクト開発支援商品）



「木目込みトレイ」
江戸木目込人形
×
会津塗（福島県）



「kulis〜くみひもうるしペン〜」
東京くみひも
×
津軽塗（青森県）



「一閑塗を用いた花器」
江戸漆器
×
別府竹細工（大分県）



「籐と和紙のうちわ」
東京籐工芸
×
細川紙（埼玉県）



「イロかご」
東京無地染
×
別府竹細工（大分県）

④ 産業交流展で「全国ゾーン」を設置

- ✓ 東京都内で開催される国内最大級の中小企業の見本市「産業交流展」で「全国ゾーン」を設け、全国の中小企業の技術の展示、事例紹介を実施
- ✓ 平成28年度は、46道府県及び6市から262企業・団体が出展（10月31日～11月2日）



「全国食品産業フェア」開催状況

平成29年度は、37道府県及び6市から118企業・団体が出展（11月15～17日）

平成30年度は、「全国食品産業フェア」へ23道府県および4市から71企業・団体が出展（11月14日～16日）

⑤ 日本各地で東京の企業と現地の企業との商談会を開催

- ✓ 日本各地での商談会の開催など、都内中小企業と各地の企業とのマッチングを促進
- ✓ 平成28年度は、10月に新潟県燕三条地域で、11月に福島県で商談会等を実施
- ✓ 平成29年度は、6月に熊本県で、10月に新潟県燕三条地域で、30年1月に静岡県浜松市で商談会等を実施
- ✓ 平成30年度は、5月に石川県金沢市（商談数279件）、8月に熊本県（商談数294件）、10月に北海道（商談数80件）で商談会を開催

商談会（熊本県）の様子

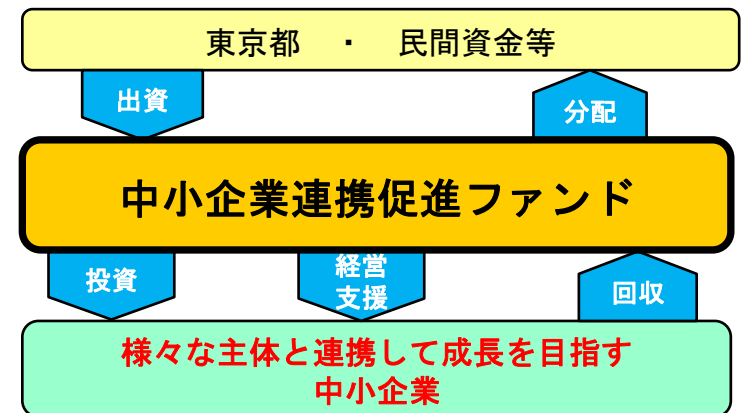


⑥ 日本各地で都内の製販企業との医工連携を促進

- ✓ 日本各地において、現地の医療機関の医療機器開発に係るニーズの発表会を行い、主に都内にある製販企業や現地のものづくり企業との連携の機会を提供し、医工連携を促進
- ✓ 平成28年度は、2県2会場で合同クラスター研究会を開催した。
- ✓ 平成29年度は、東京都が持つノウハウやネットワークを各地に提供し、3県5会場で医療ニーズ発表等が行われた。
- ✓ 平成30年度は、3府県5会場で医療ニーズ発表等が行われた。
 ※ 7月：京都大学（京都府）、9月：国立長寿医療研究センター（愛知県）、10月：獨協医科大学（栃木県）、11月：自治医科大学（栃木県）、2月：国際医療福祉大学（栃木県）

⑦ 中小企業連携促進ファンドを設立

- ✓ ファンドを創設し、大学、大企業のほか、日本各地の企業等、様々な主体との連携により、新分野に挑戦する都内中小企業に対し投資
- ✓ 平成28年7月にファンド運営事業者を選定し、平成28年11月にファンドを設立
- ✓ 株式会社ビジョンメガネ（大阪府）、株式会社ホロスホールディングス（京都府）、アコール株式会社（宮城県）、ウエストユニティス株式会社（大阪府）、株式会社DECホールディングス（大阪府）、株式会社げんきやグループ（岩手県）、株式会社アロートラストシステムズ（大阪府）などに投資している。



⑧ 日本の匠の技の魅力を発信する「ものづくり・匠の技の祭典」を開催

- ✓ 都内のみならず、全国から伝統的な匠の技と最先端のものづくり技術を集めて展示
- ✓ 衣・食・住・工の様々な分野の、優れた技を見るだけでなく、自ら体験する等、外国人を含め、誰もが楽しむことができるイベント
- ✓ 平成28年度に初開催。33都府県135団体が出展（8月10～12日、東京国際フォーラム）
平成29年度は、24都府県77団体が出展（8月9～11日、東京国際フォーラム）
平成30年度は、18都府県73団体が出展（8月8～10日、東京国際フォーラム）し、3日間で3万人が来場。
- ✓ 地下1階「全国ブース」を設け、日本各地の逸品の展示・販売の他、ものづくりの実演や体験を実施



オープニング



上棟式



関守石文鎖づくり体験



板金実演



いけばな実演



地下1階全国ブース

3. 日本各地と連携した農林業振興

日本各地と相互に協力し、国内農林産物の生産・流通を拡大することで、各地と東京の農林業の収益力を向上させる。

① 東京のブランド豚「トウキョウX」の生産拡大により、日本各地と東京の養豚農家の収益力向上・経営安定に貢献

- ✓ 今後、さらなる生産拡大に向け、流通業者等と連携して都外畜産農家にトウキョウXの生産を勧め、都外生産者を増加
- ✓ 生産効率を向上させるための技術開発や技術指導の強化、生産者・流通業者と連携したPR
- ✓ 宮城県、茨城県、群馬県、山梨県の4県で約9,500頭生産（平成30年1月～12月末）



ブランド豚「トウキョウX」



他県農場における飼養管理指導風景

② 東京の地域材と他県産木材の利用を促進

- ✓ 木材の利用拡大に向けて、日本各地と連携した木材製品展示商談会「WOODコレクション（モクコレ）」を都内で開催
 - ・平成29年1月、東京ドームプリズムホールで、16都道県で連携して開催（134者出展、約1,300人来場）
 - ・平成30年1月、東京ビッグサイトで、33都道府県で連携して開催（324者出展、約4,000人来場）
 - ・平成31年1月、東京ビッグサイトで、40都道府県で連携して開催（310者出展、約4,500人来場）
- ✓ 建材・木材製品等製造業、商社・卸売業建築設計・デザイン事務所等が多数来場
- ✓ 都関連施設において、他県産木材も利用



「WOODコレクション2019」開会式・展示の状況

③ 日本各地の農林水産物の東京での販路拡大

- ✓ 「JA東京アグリパーク」では、平成29年から引き続き、全国のJAグループ等と連携し、国内産農産物等のPRイベント等を開催し、各地の農林水産物の魅力を発信した。

※「JA東京アグリパーク」とは、農業の振興を図るため、都民（国民）に対し、農業の魅力や重要性さらに、東京及び全国のJAの取組みを発信していくことをコンセプトとし、食と農に関連する賑わいあるイベントを毎週週替わりで開催する「情報発信拠点」



新潟・十日町フェア2018（地場産業振興センター）
（5月22日～26日）
・魚沼コシヒカリ・酒類など



飛騨まるごとフェア（JAひだ）
（8月21日～25日）
・飛騨牛・五平餅など



あんぽ柿特産品フェア（JAふくしま未来）
（12月18日～22日）
・あんぽ柿など

※ 第42回全国育樹祭を実施

- ✓ 継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、毎年各都道府県が持ち回りで秋季に開催している「全国育樹祭」を東京で初開催（平成30年11月17日、18日）。全国の林業関係者が参加。
 - ✓ 皇太子同妃両殿下が御臨席の下お手入れ行事及び式典行事等を実施
 - ✓ 森づくりへの機運を一層高め、森林整備や木材利用を促進し、木材の大消費地東京ならではのメッセージを全国に発信
- 東京2020大会等での木材利用の推進など、東京のまちづくりに豊富な森林資源を有効に活用することで、全国の林業・木材産業の成長につなげていく



お手入れ行事の様子



式典行事の様子

4. 日本各地と連携した外国人旅行者誘致

東京と日本各地が連携し、外国人旅行者が東京と各地の双方を訪れるよう誘致を進め、全国で外国人旅行者による経済効果を高める。

① 日本各地と連携して東京と各地との観光ルートを設定し、外国人旅行者が東京と日本各地の双方を訪れるよう誘致

- ✓ 東京都と他の地方公共団体、民間事業者が連携し、東京と各地を結ぶ観光ルートを設定
 - 平成27年度から東北地域、28年度から中国・四国地域、29年度から九州地域、30年度からは北陸地域で設定
- ✓ 共同で世界に向けて積極的発信
 - 海外メディア等を招聘し、観光ルート体験。WEBサイトを開設して体験記を世界に発信（英語、中国語〔簡体字・繁体字〕、韓国語、タイ語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、フランス語の9言語）
 - 360度VR（バーチャルリアリティ）動画による各地の映像体験が可能
 - 航空会社・鉄道会社の媒体を利用した集中PRを実施
- ✓ Webサイトで日本各地の祭り等の情報を発信し、各地に外国人旅行者を誘致（日本語、英語、中国語〔簡体字・繁体字〕、韓国語の5言語）

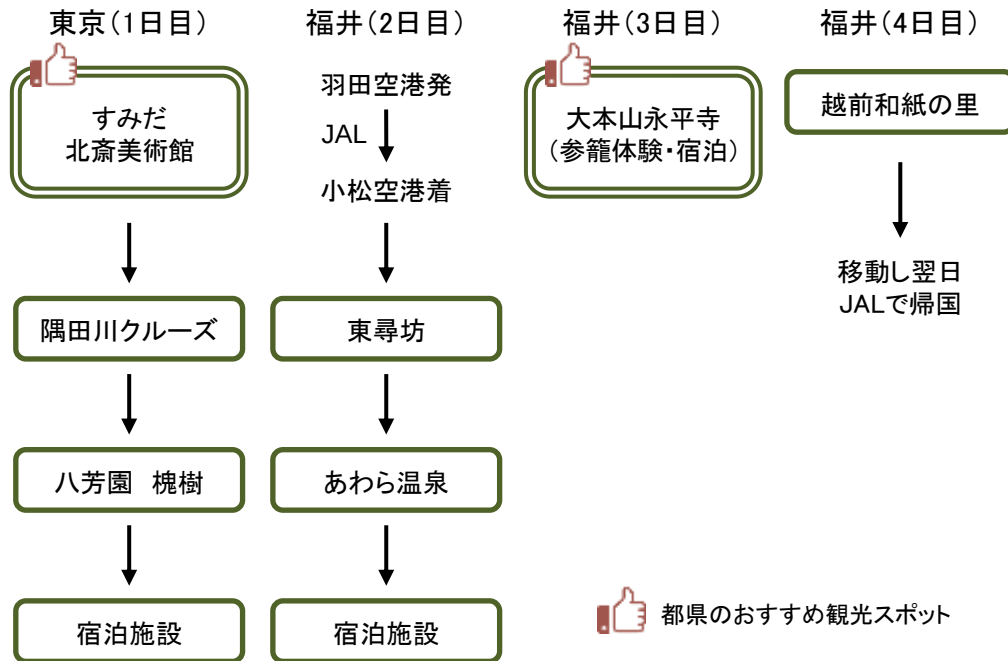


日本の祭り等の情報を発信するWEBサイト

東京と北陸を結ぶ観光ルート事例紹介（東京→福井行程）

テーマ：TIMELESS ARTISTRY

内容：日本を代表する浮世絵画家・葛飾北斎の作品を保有しているすみだ北斎美術館で、北斎の代表作・富嶽三十六景の富士山を観た後は、700年以上ある歴史と伝統を受け継ぐ信仰の源である大本山永平寺へ。ここは修行の場で参拝者は修行僧の様子を垣間見ることができます。日本の心を感じる旅。



東京都：すみだ北斎美術館

福井県：大本山永平寺

 都県のおすすめ観光スポット



福井県：大本山永平寺

【その他、東京・北陸各県を結ぶ観光ルートで巡るおすすめ観光スポット】

東京都：春花園
(BONSAI美術館)



新潟県：まつだい「農舞台」

東京都：SKY CIRCUS
サンシャイン60
展望台
(VR体験)



富山県：五箇山合掌造り集落
(相倉集落)

富山県：五箇山合掌造り
集落 (相倉集落)

東京都：新宿御苑

石川県：兼六園



石川県：兼六園

② 経済効果の高いMICEを国内他都市と連携して誘致

- ✓ 国際会議等の主催者に対し、参加者が連携都市を訪れるモデルコースを提案
- ✓ 国内の複数都市を周遊する報奨旅行の誘致に向けて、積極的に誘致に取り組む国内他都市と連携したプロモーション活動を実施
 - ・ 開催地の決定に影響力を持つミーティングプランナー等を対象とした共同での招聘旅行、海外訪問営業などを実施

※二都市を巡る周遊旅行や国際会議後に連携都市を訪れるモデルコースの提案にあたっては、平成28年度、29年度に作成したPR冊子やウェブサイトを活用

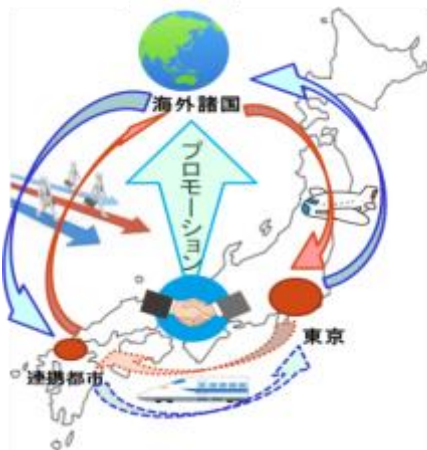
(連携都市) 平成28年度～ 札幌市、石川県、京都市、福岡市

平成29年度～ 名古屋市・愛知県、沖縄県

【報奨旅行の誘致イメージ】

【PR冊子】

【共同での招聘旅行】



③ 日本各地の道府県の提案に応じ、訪日外国人誘致プロモーションを共同実施

- ✓ 日本各地の道府県等の提案に応じ、海外メディアの招聘や商談会への参加など、双方の観光資源を活用した共同プロモーションを行い、各地と東京の双方への外国人旅行者の誘致を推進
- ✓ 平成28年度から、富士箱根伊豆国際観光テーマ地区推進協議会を主体とする富士・箱根伊豆エリア、宮城県を主体とする北海道・東北エリア、石川県を主体とする東京～北陸沿線エリアと連携、29年度からは、沖縄県を主体とするエリアとも連携
- ✓ 平成30年度からは、関東域内のラグビーワールドカップ2019™の開催都市等とも連携



招聘事業の様子
(江戸東京たてもの園、平成29年度)

④ 東京圏大回廊を活用した観光振興

- ✓ 関東観光広域連携事業推進協議会で形成した広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」を踏まえ、観光地と東京を結ぶ観光ルートを設定し、旅行商品の造成支援や共同プロモーションを実施する。
- ✓ 平成29年度は、合計10本の観光ルートを設定し、旅行商品を造成
- ✓ 平成30年度は、合計16本の観光ルートを設定し、旅行商品を造成

⑤ 国際スポーツ大会を契機とした観光振興

- ✓ 欧米豪の観戦客をターゲットとしたメディアを招聘したモニターツアーを実施し、東京と他都市の試合会場等取材した上で、その結果を欧米豪の主要国ビジネス誌、ラグビー関連雑誌等へ広告出稿
- ✓ 平成30年10月、ラグビーワールドカップ2019™等のスポーツ大会を観戦するために来日する外国人旅行者に向けて東京や日本各地の観光情報、アクセス情報等を発信するWebサイトを開設

ウェブサイト「JAPAN SPORTS JOURNEY」

JAPAN SPORTS JOURNEY



<https://www.sportsjourney.jp/>

5. 東京で日本各地の魅力に触れる機会の充実

東京と日本各地が連携し、東京で各地の多様な魅力に触れる機会の充実を図る。これにより、東京の魅力を高めるとともに、各地の観光振興や物産販売にも寄与。

① 都内アンテナショップの情報の発信

- ✓ 日本各地の自治体が都内に設けているアンテナショップの情報を発信
 - ・ 日本全国物産展でパンフレットを提供
 - ・ 都内全戸配布の広報紙「広報東京都」平成28年3月号、平成29年1月号に各アンテナショップの情報を掲載
- ✓ 都内の各アンテナショップを回遊するスタンプラリーを実施
 - ・ 平成29年2月～3月（33自治体、31ショップが参加）
 - ・ 平成31年1月～2月（59自治体、57ショップが参加）
- ✓ 東京を訪れた外国人個人旅行者が気軽に日本各地を訪れるよう、東京と日本各地の魅力的な観光資源を海外に向けて広く発信するポータルサイトを開設し、各アンテナショップ情報を掲載（平成29年3月）
- ✓ 平成29年度からは、ポータルサイトにおいて、都内で開催される日本各地のイベント情報も掲載



アンテナショップ紹介冊子
兼スタンプラリー台紙（平成30年度）

② 東京都の観光情報センターで全国の観光情報を提供

- ✓ 東京都庁、バスタ新宿（新宿高速バスターミナル）、京成上野駅、羽田空港（国際線旅客ターミナル）、多摩（エキュート立川）において、全国の観光情報を多言語で提供



東京都庁



京成上野駅



羽田空港（国際線旅客ターミナル）



多摩（エキュート立川）

- ✓ バスタ新宿内に設置された観光情報センターでは、全国の観光情報の提供に加え、宅配・手荷物預かりサービスなど、旅行者のニーズを捉えたワンストップサービスを提供



③ 都内で開催される民間大規模イベントを活用し、東京をはじめ各地の観光PRを実施

- ✓ 集客力の高い民間大規模イベント「ふるさと祭り東京2019」（東京ドーム）に都が特設ブースを確保。
- ✓ 東京をはじめ各地のマラソン大会紹介を切り口とした「魅力発見！全国ご当地マラソン2019」を開催し、平成30年度は東京を含む20地域の観光資源等の情報を発信
- ✓ 平成27年度から継続して開催



魅力発見！ご当地マラソン2019

④ 日本各地と都内の各自治体が連携した観光資源の磨き上げを後押し

- ✓ 日本各地と都内の各自治体が連携して実施するイベントの取組を支援し、新たな観光資源の磨き上げを促進
- ✓ 平成30年度は、北区と山形県酒田市、群馬県甘楽町、群馬県中之条町との連携により、体験教室イベントを実施

<日本各地と連携した取組イメージ>

- ・ 共同物産展、共同イベント等の開催
- ・ 特産品を活かした共同商品開発
- ・ アンテナショップを通じた連携など



北区と友好都市との
体験教室イベントの開催

⑤ 日本全国物産展（LOCAL SPECIALTIES FAIR）を開催

- ✓ 平成30年8月までは都庁第一本庁舎45階展望室において、9月からは羽田空港第2旅客ターミナルにおいて実施
- ✓ 都道府県ごとに陳列スペースを設け、特産品を販売
- ✓ 外国語（英・中・韓・タイ）に対応可能な案内スタッフに加え、販売商品を多言語で確認できるタブレットを設置。クレジットカードが利用可能なほか、外国人旅行者向けに免税手続きカウンターを設置
- ✓ 平成30年度は都庁展望室においては約2万4千人、羽田空港第2旅客ターミナルにおいては約4万人が商品を購入（平成31年3月末現在）



⑥ 都庁舎の「全国の自治体の観光情報発信拠点」での各地の観光PR

- ✓ 平成30年4月、都庁第一本庁舎1階に「全国観光PRコーナー」をリニューアルオープンし、運営
- ✓ 全国自治体が観光等のPRイベントを実施（H30年度実績：44団体）
- ✓ 全国自治体の観光パンフレット等を常時配置し、情報を発信
- ✓ 東日本大震災や平成30年7月豪雨被災県等のパンフレットコーナーを設置
- ✓ 多言語で全国の自治体の観光案内



全国観光PRコーナー
（第一本庁舎1階）

⑦ 「東京味わいフェスタ」を開催し、東京産食材のほか、日本各地のグルメ等を提供

- ✓ 「東京味わいフェスタ」を開催し、東京の農林水産物、伝統工芸品の展示・販売、東京産食材を使った有名シェフの料理の提供等を実施
- ✓ 東京のみならず、全国各地のグルメ、特産品の紹介・販売
- ✓ 平成28年度は、10月に有楽町エリアで17府県、11月に臨海副都心エリアで14県のグルメ等を販売
平成29年度は、9月に臨海副都心エリアで19府県、10月に有楽町エリアで9県のグルメ等を販売
平成30年度は、9月に臨海副都心エリアで19道府県、10月に有楽町エリアで16府県のグルメ等を販売



有楽町エリアの様子



丸の内エリアの様子



臨海副都心エリアの様子